

破壊からの脱出 (Escape from Destruction)

登場人物

コルヌコフ—アナトリ・コルヌコフ将軍、ソコル空軍基地の司令官(サハリン)。1998年1月22日にボリス・エリツィンによってロシアの新空軍司令官に任命された。彼は2002年の1月に引退するまでこの職に従事した。

ゲラシメンコ—空軍中佐、第41戦闘機連隊司令官代理

ノボセレツキ—空軍中佐、スミルニク空軍基地、航空師団参謀部長代理

オシポビッチ—少佐。ゲンナジ・オシポビッチ。サハリンのソコルに配置されたコールサイン805のスポーイ15フラゴン(SU-15)迎撃機のパイロット

チトーブニン—航空師団戦闘管制センター飛行発着係

次の事は、「007の救出」の58ページから65ページまでを引用しています。(弱冠の修正を含む)。ロシア語の写しは1993年のICAO(国際民間航空機関)報告からのものです。解説はバート・シュロスバーグによってなされています。

サハリンのソコル空軍基地に帰還しているオシポビッチ少佐は、彼の任務が達成されたと信じていた。しかし、何人かのソビエトラダー司令部責任者によってかなり違う結果が導き出されていた。オシポビッチが報告を出してから、数秒以内に—また数分後に—KAL007便は画面から消えた代わりに、なお飛んでいるのがはっきりと見えていた。空中爆発がもしあったら、こういう事実もあっただろう。その上、デジタル飛行情報録音テープから、そのジャンボ機は実際、空中を上昇していた。

コルヌコフ:(18時26分)

画面で標的が見えるか？

ゲラシメンコ

ちょっとの間、見る事が出来ます。

コルヌコフ

彼はミサイルと何かを発射したのか？

ゲラシメンコ

両方ともミサイルです。

コルヌコフ

ミグ23を連れて行け。



コルヌコフ

ゲラシメンコ！

ゲラシメンコ

はい。

コルヌコフ:(18 時 27 分)

これは任務だ…ミグ 23 を連れて行き、標的を撃墜せよ。

ゲラシメンコ

はい、かしこまりました。

コルヌコフ

ゲラシメンコ

ゲラシメンコ

163(ミグ 23 の名称)はアフターバーナーをかけるように命令されてます。ミグを攻撃位置につかせます。

コルヌコフ

了解。オシポビッチはミサイルの爆発を見たか？どうだ？

ゲラシメンコ

彼は 2 発のミサイルを撃ちました。

コルヌコフ

彼に聞け、お前が聞き、チャンネル 3 に合わせて、オシポビッチに爆発を見たかどうか聞け。

ゲラシメンコ

早速します。

アメリカの電子諜報傍受によると、オシポビッチは 18 時 27 分に聞かれ、「805、お前は一発のミサイルを撃ったのか、それとも二発か？」オシポビッチは応えて、「二発撃ちました。」しかし、二分間の衝突の中で、航空機の生存者に対する不安は他の司令部責任者にも広がっていった。午後 6 時 28 分、ソビエトと日本のレーダー観測とデジタル飛行情報録音機によると、KAL007 便は通常の呼吸できる高度に到達するために 5 分間の加速を伴った降下を始めようとしていた。スミルニク空軍基地の司令官、ノボセレツキ中佐は、その不安をオシポビッチ少佐の地上発着係のチトーブニンに表している。

ノボセレツキ:(18時28分)

チトーブニン、おい、何が起きているんだ？

チトーブニン

一応、何も起きていないようです。

ノボセレツキ

それで、何が起きているんだ、何が問題なんだ、誰がオシポビッチを導いたんだ、彼は照準を定めたのに、なんで撃ち落とさなかったんだ？

チトーブニン

彼らは撃ちました。撃ったんです。同志中佐、我々は結果を待っています。

18時28分、コルヌコフ将軍はKAL007便の生存者の事だけではなく、それが扱いやすいことにも気付かせられていた。

ゲラシメンコ

標的は北に向かいました。

コルヌコフ

北に向かったのか？

ゲラシメンコ

その通りです。

コルヌコフ

23(ミグ)を連れて行き、それを撃墜せよ！

18時29分までに、コルヌコフ将軍はKAL007便撃墜に失敗した事に大変怒り、ゲラシメンコ中佐に食って掛かった。彼の話と思考は混乱し始めていた。

ゲラシメンコ

体を右に向けてください(落ち着いてください)。

コルヌコフ

うむ、わかっている。だが、結果がわからない、なんで標的は飛んでいるんだ？ミサイルは発射されたんだぞ。なぜ、飛んでいるんだ？（不快さを持って）うむ、何が起きているんだ？

ゲラシメンコ

はい。

コルヌコフ

うむ、命令を下す。発着係りに自分のどこが悪いか、命令を下せ。お前は自分の舌を失ったのか？

ゲラシメンコ

將軍同志、参謀部長に、発着係りに対する参謀部長に命令を下しました。それで、発着係りは命令を下して…

コルヌコフ：(18時30分)

うむ、この情報を伝えるのにどれくらい時間がかかっているんだ、お前はミサイルを発射した事の結果を聞けないのか、どこで、何のところが彼はわからなかったのか、それとも何を？

写しは18時30分から34分の間でKAL007便を撃墜するのに失敗したことに対する増えつつある不安を示している。しかし、18時34分の始め、様々な司令部責任者において他の不安が広がっていくのが始まる。—KAL007便がレーダー画面から消えたのだ！迎撃機はKAL007便を視覚的に見られなく、レーダーもジャンボジェットとの接触がない。この事がKAL007便の飛行中、どんな空中における故障によって引き起こされた訳ではないと言うことは、ソビエトのレーダー追跡からも、また付け加えられた遠距離通信—少なくとも18時38分までに続いていたKAL007便の飛行を記録していた追跡—の中で報告された事においても明らかである。KAL007便がロケット攻撃を受けてから少なくとも12分間空中にいた事は、アメリカ国務省の論拠と国連の断定になった他の追跡による。

コルヌコフ：(18時32分)

23(ミグ23)に…アフターバーナーするように言え。発射せよ。標的を撃墜し、それから自分の基地に着陸するように言え。

ゲラシメンコ

了解。

コルヌコフ

高度…俺達の戦闘機と標的の高度はいくつだ？
早く。標的と戦闘機の高度は？

何で何も言わないんだ？…ゲラシメンコ…

ゲラシメンコ:(18時33分)

ゲラシメンコです。高度は5000です。

コルヌコフ

もう5000か？

ゲラシメンコ:(18時34分)

はい、左、右に曲がって、明らかにそれは降下しています。

18時34分、ミサイルが当たった8分後のその時、「攻撃」レーダーは007便との接触を失い、もう二度と回復することは出来なかった。KAL007便はこの時、16,400フィート(5000メートル)の高度にいた。

コルヌコフ

それを撃墜せよ、23を使って撃墜せよ、わかったな。

ゲラシメンコ

了解、撃墜します。

コルヌコフ

うむ、戦闘機はどこだ、標的からどれくらい離れているんだ？

ゲラシメンコ

将軍同志、彼らは標的が見えません。

コルヌコフ

標的が見えないだと？

二分間めいっぱい、レーダー局というレーダー局が疑問に回答して、彼らがもうKAL007便を追跡していないという事実を確認する。そしてミサイルが衝突してから10分後、我々はコルヌコフ将軍によってKAL007便がどこに位置しているのか知らされる。KAL007便はモネロン島の上空に位置している。

コルヌコフ:(18時36分)

オー(不快さを持って)お前は標的がいるレンジを知っている、それはモネロン島上空にいる。



モネロン島

KAL007 便はロケット攻撃されたサハリン島上空のソビエト領域を通過し、モネロン島に近付いたので、もう一度ソビエト領域に入るためだけに、公海水域に入った。ソビエトの司令官が正確に 007 便がどこにいたのかを知っていた事に疑いはなく、実際、どんなことでも彼らがしようとしていた「搜索」作戦は救出作戦であったにちがいない。

チトーブニン: (18 時 38 分)

同志中佐、彼らはモネロン島領域において標的を見失いました。

ノボセレツキ

モネロン島領域においてか？

チトーブニン

パイロットは誰もそれを見ていません。誰もです。無線電信隊が報告しています。RTF はミサイル発射の後、標的はモネロン島上空で右旋回に入った事を報告しています。

ノボセレツキ

うんうん。

チトーブニン

降下してしまして。
そしてモネロン島上空で見失いました。

ノボセレツキ

それで任務だ。彼らはそれが今再び国境を侵したというのだな？

チトーブニン

はい、それはもちろん我々の領域を越えて、モネロン島領域です、

ノボセレツキ

それを捕えよ。捕えよ。ミグ 23 を連れて行き、前進させよ。

チトーブニン

了解。ミグ 23 はその領域にいます。5000 メートルまで降下しています。命令は下されています。発見後、撃墜せよ。

モネロン島。モネロン島上空に位置することは正確に場所を知られることになる。モネロン島は小さい、岩で出来たタルタル海峡にある島である。おおよそ 4 と 1/2 マイルの長さで(南北軸)、3 マイルの幅である。それはだいたいサハリンの港町ネベレスクの西南西 41 航海マイルの所に位置し、そしてサハリン島に一番近い沿岸の岬のまさに西約 26 マイルの所にある。

1991 年の KAL007 便を特集したシリーズのイズベスチヤに含まれていた目撃者証言によると、日本人漁師によって報告された目撃者の話も同様に、KAL007 便はモネロン島辺りで 2 回、旋回をした。(共和党の局員による研究論文「CIA」報告、49 ページ)これらの旋回は航空機がなお降下しているときになされた—それは、KAL007 便が螺旋降下していたという事—もしくは航空機が一定の高度にいたときにそれらがなされた。—それは旋回という事。どちらの場合においても、KAL007 便の飛行の軌道の円周は 4 マイルの長さの島そのものよりも大きかったはずが無い、なぜなら航空機の旋回は救助を確実にする為、モネロン島に十分近くに着陸する予想と準備のためだけに為されたはずだから。これは特に、我々が KAL007 便がモネロン島上空にいて、降下して、ソビエト軍によって位置させられていた事を思い出すときに、説得力がある。

これらの情報から次の三つの事柄が明白である。

1. ソビエト軍によって送られた「搜索」派遣隊は救出派遣隊であったに違いない。

2. モネロン島に一番近い岬から少なくとも最大 12, 5 マイル北の公海水域におけるアメリカと日本の搜索、救出作戦と最大 225 平方マイルの取り囲みはただ無駄に終わったに違いない。(実際、それは証明された)

3. 座標が北緯 46、33、32、東経 141、19、41 でモネロン島の北最大 17 航海マイルの公海水域における主要なロシアの海難救助作戦は、ただ陽動作戦だったに違いない。

注: 不首尾に終わったアメリカと日本の搜索、救出作戦はソビエトの日本大使、ウラジーミル・パブロフによって 9 月 8 日に示された座標において行われた。ソビエト独自の搜索、救出作戦と同じく、この情報がソビエトの欺きの一部であり、意図された陽動作戦であったという事は、KGB のトップの V・チェブリコフとソビエトの最高指導者ユーリー・アンドロポフに対しての国防相の D・ウスチノフからの 1983 年の日付の「極秘内部文書」の出版によって今や証明されている。この文書は述べている、「作り出された搜索の努力は現在、アメリカと日本に偽情報を流すために我々の船によって行われつつある。これらの活動は特定の計画と一致して、止められるだろう。」ソビエトは 11 月に入って続いている搜索作戦を模擬演習していたが、一方、実際にはスベスタポールからのソビエトの民間潜水夫の最初の潜水が 9 月 15 日に KAL007 便に対して行われた！さらに、これらの民間の潜水夫はソビエトの海軍の潜水夫は彼らよりさらに早く潜っていったと報告している。ソビエトの欺きを知りたいなら、「KAL007、アメリカ第 7 艦隊と大ロシアの策略」を見てください。